

[説明資料(提出ファイル)] 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDFに変換した後, web提出フォームにて提出する。

学校名	北海道教育大学 旭川校	個人・ グループ名	勝瀬 駿太	作品名	和洋ダンス
-----	----------------	--------------	-------	-----	-------

私は今回、来年以降に控える新生活を考え、また大学生活4年間の集大成として本学
学校祭の木工展で「和洋ダンス」を作成した。縦300×横450×高さ900(mm)と小さいな
がらも随所にこだわりを施した。置く部屋、場所を選ばない多用途に使える作品ができた
と感じている。

4段の引き出しは縦250×横380×深さ110(mm)で、すべて同じ大きさにしてある。天
板の上にはものを置けるように天板は側板の上から接合している。

材料は道産ナラの無垢材と桐集成材(引き出し部分)、シナ合板を利用した。塗装は、木
材の質感や色、暖かさを最大限に生かすため透明なオイルフィニッシュ(WATCO 木材専
用オイルフィニッシュ)で塗装している。(3度塗り) 完成後の歪み・反りの軽減のために
組み立てを行う前に塗装を行った。作品は全面、400番のやすり、耐水ペーパーで仕上げ
ている。

この作品の一番の特徴は高めの脚(300mm)があることだと考えている。脚をすることで
作品下部に空間と奥行きを与え、引き出し特有の重みのある見た目のイメージを軽減し
ている。その結果、見た目に軽い印象を与えている。また、作品全体の角を面取りして
落とすことでも印象を軽くし、さらに安全面にも配慮している。

脚部と本体の接合(木ねじ)、引き出し部分以外はねじやくぎを使わずに作成している。
天板・底板・側板は似た木目を使えるように同じ材から材料を取った。

用紙下部には、作品の細かい部分の工夫点について、写真の解説という形で列挙した。
大学生生活4年間の集大成をご覧ください。(右図、学校祭での展示の様子)

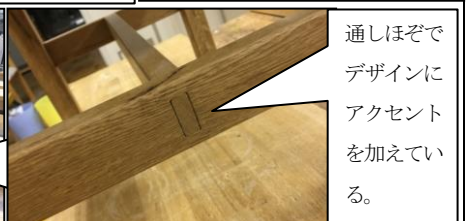
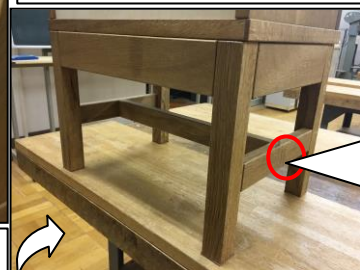


最大限に幅を利用するために、金属のレールなどを用い
ず、引き出し部分の溝と本体のひっかけで作成した。10mm
の溝に対して9.5mmのひっかけを打ち付け、そこをスラ
イドさせている。仮組み立てをしながらのひっかけの高さ
の微調整にとっても苦労したが、結果狂いの少ない引き出し
が完成した。天板・底板・側板はダボ接合。背板は天板・
底板・側板に溝を切り込み、そこにはめ込んでいる。

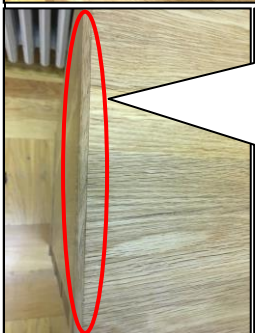
正面に見える板には、見た目に面白い木目の板
材を使用した。表面に隠しねじのあとが出ない
よう、裏側から貫通しない長さのねじで止めて
いる。取っ手は、シンプルかつ色合いを考慮
したものを使用している。

溝をつけた。(左四角参照)

引き出しの材は吸湿性の低さと歪みにくさ、軽
さという特性を生かし桐集成材を用いた。また、
デザインのアクセントとして黒い木ねじを用い
た。引き出しの底板には5mmシナ合板を用い
ている。囲いに溝を彫り、底板をはめ込んでいる。



通しほぞで
デザインに
アクセント
を加えてい
る。



天板・底板の木口面に薄い
板材を張り付けた。これによ
って、木口面が見えなくなり
美観の向上につながる。ま
た、幅はぎをしている天板の
強度の向上をしていたり、背
板をはめるための溝を隠す
効果もある。



脚部はすべてほぞ組みで接合した。釘やねじ
などは一本も使用していない。脚部にはぎをし
て、35mmの角柱を作っている。脚の裏にはフ
ェルトを貼り付け、床を傷つけないことで
実用性を高めている。すべての脚の高さを揃
えるために、製作の過程で何度も微調整を重
ねた。はたがねで固定して製作した。

(写真は未塗装のもの、上は塗装済みのもの)